巻　末

目　次

1　検討経過等と体制 1
2　市民会議報告 3
3　シンポジウム概要、アンケート結果 21
4　用語の定義 24
5　参考事例 25
6　歴史資産のまち‘やお’推進のための基本的な４つの考え方の展開事例（案） 30

1　検討経過等と体制

平成 29 年 2 月の「由義寺跡」の発見を契機に、平成 29 年度より「歴史資産のまち‘やお’」を推進するための検討を市民とともに行ってきました（推進市民会議検討内容抜粋を参考として後掲。）。

平成 30 年度、本書の策定にあたっても、昨年度と同様、推進市民会議及び庁内会議を設置し、それぞれに議論を行いました。

推進市民会議のメンバーは、歴史資産を活用した取り組みを行っている市民や公募市民などと、市役所の公募職員の 12 名で構成し、和泉大樹准教授（阪南大学国際観光学部）にファシリテーター※を務めていただきました。

また、庁内会議のメンバーは、政策推進、市政情報・魅力発信、都市整備、産業、地域活動支援、学校教育等の所管課を中心に 12 名で構成し、それぞれ以下の内容で会議を展開しました。

※集団による問題解決、アイデア創造、教育、学習等、あらゆる知識創造活動を支援し促進していく役割を担う人

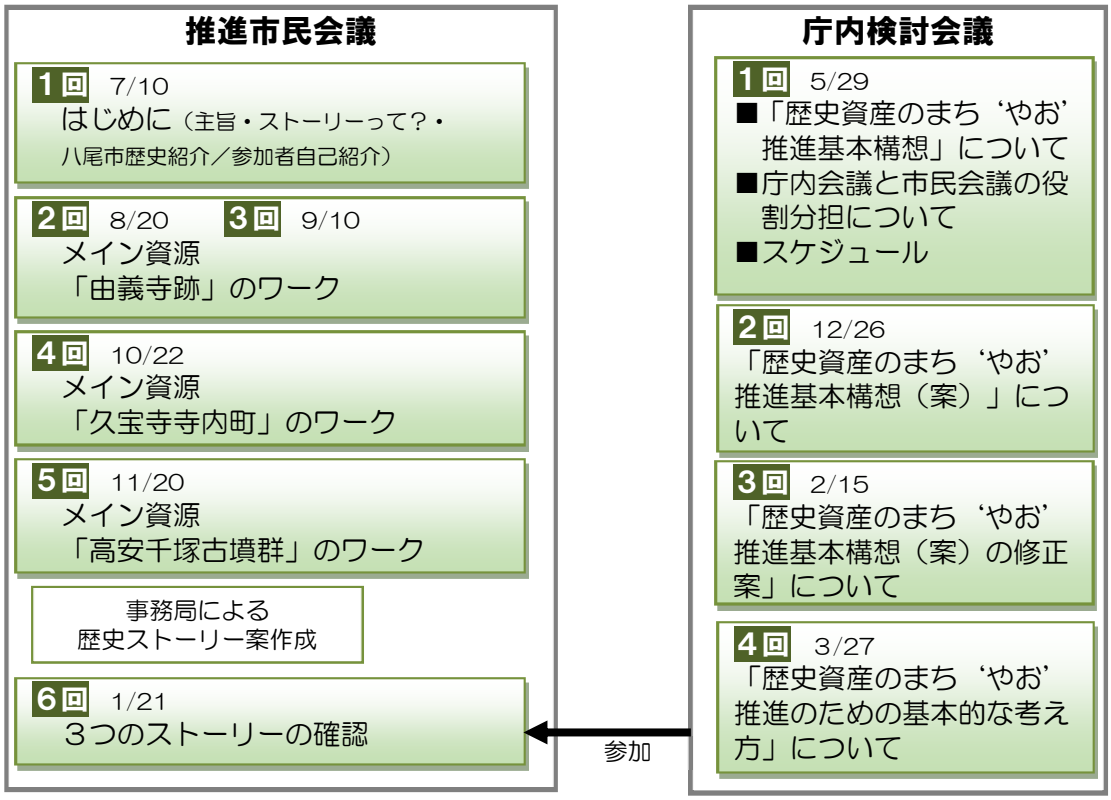


図 策定の体制及び経緯

推進市民会議メンバー

区分	平成 30 年度	平成 29 年度
市民委員	植木　暉	石井　英雄
	内田　茂	内田　茂
	大嶋　一美	梶谷　隆久
	鈴木　雅彦	田中　章雄
	髙砂　宗希	田中　超也
	中田　隆	土山　正樹
	中務　充起代	永野　百香
	松江　信一	水谷　彰
		水谷　希亮
市職員委員	塩津　祐子	北野　正剛
	辻野　築	西井　綾乃
	中井　健太郎	廣田　政士
	西井　綾乃	

※ファシリテーター：和泉大樹准教授（阪南大学国際観光学部）

庁内検討会議メンバー

部　名	所　属・役職	平成 30 年度	平成 29 年度
政策企画部	総合計画調整担当理事	一ノ本　大治	吉村　公一
	政策推進課長	藤本　寿江	藤本　寿江
総務部	市政情報課長	林田　眞希子	林田　眞希子
財政部	財政課長	山原　孝英	一ノ本　大治
人権文化ふれあい部	文化国際課長	鎌田　邦治	鎌田　邦治
	コミュニティ政策推進課（旧「市民ふれあい課」）長	的場　清信	太田　浩子
経済環境部	産業政策課長	西野　賢二	西野　賢二
都市整備部	都市政策課長	堀　俊二	堀　俊二
	都市基盤整備課長	米重　豊裕	米重　豊裕
	みどり課長	真田　洋	真田　洋
教育総務部	生涯学習担当次長	万代　辰司	万代　辰司
学校教育部	部次長	山本　寿子	

※座長：総合計画調整担当理事、副座長：生涯学習担当次長

2 市民会議報告

歴史資産のまち‘やお’推進市民会議（以下「推進市民会議」という。）において、歴史ストーリーづくりに取り組みました。推進市民会議では、12 名の委員が２つのグループに分かれ、核になる歴史資産にどのような歴史資産を関連付けるか、また、どのような地域資源をあわせていくかを、自由な発想で議論いただき、核になる歴史資産１つにつき各グループで歴史ストーリーをひとつ生み出しました。

核となる歴史資産と提示したスパイス

核となる歴史資産	提示したスパイス	
	資源毎	共通
1.由義寺跡	—	—
2.寺内町（久宝寺寺内町）	御坊さん／町並み／古民家／灯り／地域／コミュニティ／聖徳太子	【八尾らしさ】 ものづくり／歯ブラシ／河内音頭／布団太鼓／祭り／鉄道／空港／枝豆／若ごぼう／紅蓼／職人／川／学び／木綿 【流行】 カフェ／スイーツ／インスタ映え／AI／ドローン／フリマ 【その他】 音／香り／花／自転車／聖地／地蔵／街道／盆／宿
3.高安千塚古墳群	古墳／高安山（山麓地域）／石／植木畑／四季／峠道／ハイキング／豪族・貴族／眺望／たくさん	

※由義寺跡ではスパイス提示をしていない

由義寺跡：A班

キャッチコピー	**ものづくりの物語 ～瓦から電子機器まで、技術をまめに磨いた八尾人～**	
キーワード	≪ものづくり≫河内木綿、繊維、歯ブラシ、瓦、向山瓦窯、卑弥呼の時代からの技術 ≪河川≫大和川の付替え ≪飲食≫お酒、枝豆	
スパイス	ものづくり	
ストーリーイメージ	電子機器など製造業を中心に中小企業の町として名高い八尾市。このものづくりの気風は、今に始まったわけではなく、古代は卑弥呼の時代から続いています。平等院の瓦を焼いていた瓦窯、大和川の付替え、丈夫で長持ちする河内木綿、生産日本一の歯ブラシなど。特に八尾の平野にそびえ立った由義寺の七重塔はまさに当時のものづくり技術の集大成と言えるでしょう。これらは、いずれも八尾に住む人々が技術をまめに磨いてきたからこそ成し遂げられたことです。古代より連綿と受け継がれているものづくりの物語。そんな八尾人の歴史ロマンあるものづくり文化に触れてみませんか。	
活用イメージ	⇒「ものづくりの町」として、歴史資産を事業資源として活用しやすくなることで、産業振興にも結びつく。	
活用アイデア	地域	・綿花を植えて、綿花ロードにする。 ・花壇を設置して、華やかにする。
	事業者	・「道鏡の○○」として売り出す。（例：道鏡の隠れ湯） ・道鏡のお酒を開発する。 ・若ごぼうや枝豆を使ったメニューを開発・販売する。 ・道鏡は悪い人ではないというイメージを普及させる。（道鏡を知ろう会） ・八尾ブランドのマークに七重塔を使用する。 ・八尾コレクションなど既に行っている事業を活用して、由義寺跡を発信する。（商工会議所） ・情報発信の場を由義寺跡にサテライト的に設置する。（観光協会） ・新しくできる商業施設において、由義寺跡やものづくりについて発信する。 ・由義寺跡の近くに道の駅を整備する。
	教育関係者	・由義寺跡を学習施設として整備して、遠足等で訪れる。
	行政	・さらなる発掘調査を行う。 ・由義寺跡について広く発信する。 ・道鏡は悪い人ではないということを調査している市民と連携する。 ・外環状線などで垂れ幕を使って由義寺跡の存在をアピールする。 ・志紀駅から由義寺跡までの道のりに桜を植栽する。
関連歴史資産等	弓削神社、向山瓦窯、渋川廃寺、特産品（工場、畑など）、旧大和川堤防　など	

由義寺跡:B班

キャッチコピー	日本の玄関口　大河の都　東の平城京・西の由義宮（寺）	
キーワード	≪河川≫長瀬川（旧大和川） ≪文化≫天平文化の流れ ≪社寺等≫平城京・由義神社（旧由義宮跡）・興福寺・大安寺・東大寺	
スパイス	巨大	
ストーリーイメージ	かつての大和川（現長瀬川）は川幅 200～300m の大河で、現玉串川との合流点に位置する弓削地区には、8 世紀に平城京の玄関口として天平文化の流れをくんだ巨大な七重塔、由義寺が建造されました。 それから 1300 年経った現在でも、八尾のまちを歩くと大河「旧大和川」の痕跡をみることがき、東の平城京に次ぐ、日本の玄関口であった「西の都　由義宮」を彷彿させます。	
活用イメージ	⇒旧大和川の痕跡を見つけながら歩く（旧大和川にまつわる様々な歴史を知ることができる）	
活用アイデア	地域	・資料館建設の要望を出し、完成したら、特産品を売る。 ・NHK「ブラタモリ」の誘致を要望する。
	事業者	・塔を建てて儲ける。 ・道鏡・称徳天皇ゆかりの地を巡る JR 大和路線「平城京～由義寺」ツアーを展開する。
	教育関係者	・資料館ができたら生徒・児童を連れていく。
	行政	・資料館をつくる。 ・里中満智子先生に観光大使をお願いする。 ・当時を体感できる VR をつくる。 ・NHK「ブラタモリ」を誘致する。
関連歴史資産等	旧大和川　など	

寺内町:A班

キャッチコピー	いつまでたっても商い町～道が繋ぐ賑々しい御坊町～
キーワード	交通：河内街道、大和川の付替え、久宝寺川（長瀬川）、八尾浜、船着場（灯篭あり）、旧近鉄八尾駅 商い：商売、商人、お逮夜市、綿花、久宝寺木綿、歯ブラシ、紅蓼、さのかわ通り、仏壇通り、芝居小屋・映画館、青果市場 賑やかさ：河内音頭、お逮夜市、さのかわ通り
スパイス	商人
ストーリーイメージ	寺内町は、特権制度や旧大和川、八尾街道など交通の便のよさから商人が集まる町であり、久宝寺寺内町には古い商家のお屋敷が今も残されています。現在においても、八尾寺内町を含む近鉄八尾駅周辺一帯は、八尾の中心地であり、かつて顕証寺から大信寺にかけてお逮夜市が開かれていた場所はファミリーロードとなり、久宝寺寺内町には、古民家カフェが運営されるなど今も商いの文化が続いています。このように寺内町は、昔から今に至るまで商

	人が集まる町としてあり続けています。八尾寺内町周辺には河内音頭の発祥の地である常光寺もあり、八尾は日本一賑やかな御坊の町といえるでしょう。商人の歴史文化が息づくこの地は、何度来ても飽きない場所です。	
活用イメージ	⇒寺内町と今の中心市街地との関連性の理解を促しながら、寺内町を含んだ近鉄八尾駅周辺一帯を賑やかな商人の町として売り出し。	
活用アイデア	地域	・八尾や萱振でも、久宝寺寺内町で行われているような史跡巡りや学校との連携を行う。
	事業者	・御坊とごぼうを絡めた商品・料理を開発・販売する。 ・御坊の「ご」の字を取って、５のつく日に歩行者天国となるフリーマーケット（ごぼう市）を開催する。月に３回、久宝寺、八尾、萱振と会場を変えながら行う。 ・駅と寺内町を結ぶ道にお店を出店する。 ・定期的に寺内町を巡るウォーキングイベントを行う。 ・仏壇通りでよく行われる町ぶら企画のテレビロケで、寺内町と仏壇通りとの関連を伝えてもらう。 ・三池監督に八尾の歴史を伝える映画を作ってもらう。 ・ファミリーロードを映画のロケ地にする。
	行政	・駅と寺内町を結ぶ道を設定して、美舗装化などの整備を行う。
関連歴史資産等	大信寺、顕証寺、常光寺、浅野家住宅、高田家住宅、桃林堂板倉家住宅、八尾街道、八尾浜、お逮夜市、河内音頭など	

寺内町:B班

キャッチコピー	**１㎞四方に刻まれたヒストリー**
キーワード	≪有名人≫聖徳太子 ≪歴史文化≫自治・自衛、環濠、町割り、大阪夏の陣、河内木綿 ≪寺社等≫顕証寺、麟角堂、八尾街道、仏壇通り、燈路祭
スパイス	灯、香
ストーリーイメージ	久宝寺の名は聖徳太子が建立した久宝寺に由来するといわれています。寺内町は久宝寺御坊顕証寺を中心に、畿内随一の自治集落として 16 世紀半ば戦乱の時代に誕生しました。特徴的な２重の環濠と碁盤の目は、敵が簡単に進入できないような自衛の工夫がしっかりとされています。 八尾には、他にも八尾寺内町、萱振寺内町がありますが、大坂夏の陣では、若江、八尾、久宝寺を中心に衝突したバトルフィールドの一つになりました。江戸後期には河内で河内木綿の需要が高まり、それに伴い綿作農家は高い知識と教養を身につけたといいます。かつて、八尾には久宝寺の麟角堂、八尾の環山楼など沢山の塾がありました。八尾は約 450 年前から、自治・自衛そして学問への興味や関心をもった向上心の高い人が集っていたのです。 現在、久宝寺寺内町を歩くと、約 450 年間変わらぬ碁盤の目の中に刻まれた、自治、自衛、戦跡、学問の積み重ねを感じることができます。 更に、八尾街道にある「ぶっだん（仏壇）通り」では、線香の香りとともに仏師が代々受け継ぐ技を実演しています。燈路まつりでは子どもから大人まで約 450 年続く寺内町を照らし、地域の歴史的価値を現代人の瞼に刻んでいます。久宝寺寺内町は約１㎞ 四方に濃密すぎるヒストリーが詰まった場所なのです。

活用イメージ	⇒自治・自衛の寺内町、学舎など、八尾が向上心あふれる人々が暮らすまちであることを紹介する。	
活用アイデア	地域	・子どもガイドを育成して伝えていく。 ・空き家が活用されるよう、寺内町の魅力を伝える。 ・防犯灯をつけて安心な環境をつくる。
	教育関係者	・子どもガイド育成に協力する。 ・学校で寺内町探検をする（現在の取組の継続）
	行政	・景観条例の「重点地区」として景観形成に取り組む。 ・空き家対策として街並み維持につながる助成をする。 ・通り抜け車が多いので車の交通規制をする。 ・街灯をもっとつけて安心な環境をつくる ・寺内町デザインのマンホールのふたをつくり、マンホールで寺内町の区域がわかるようにする（コレクター心をくすぐる）。
関連歴史資産等	八尾寺内町、萱振寺内町、環山楼	

高安千塚古墳群：A班

キャッチコピー	**千塚へ Go ランド！～千客万来の道ここにあり～**	
キーワード	≪有名人≫在原業平、伊能忠敬、伴林光平、モース、ガウランド ≪山麓の歴史文化≫芸能の舞台、俊徳丸、高安能、高安祭 ≪寺社≫河内西国巡礼、玉祖神社、恩智神社、法蔵寺、神光寺、大通寺	
スパイス	偉人、道	
ストーリーイメージ	高安山麓地域に多いのは古墳だけではありません。高安山麓は、在原業平や伊能忠敬、伴林光平、モース、ガウランドなど多くの偉人が訪れ、俊徳丸伝説や玉祖神社の高安能、河内西国巡礼など多くの歴史文化の舞台となった場所でもあります。それは高安山麓に古くから東高野街道や十三峠など国内外と繋がる道があったからこそ。高安千塚が造られた時代も例外ではありません。当時の高安山麓は、ヤマトと世界を繋ぐ玄関口だった河内湖が目前に広がり、渡来系集団と強い繋がりがある地域でした。古墳の時代から続く道と人のストーリー。花開く、古墳あふれるこの高安山麓には、千（塚）客万来の物語があります。	
活用イメージ	⇒古墳や花卉産業だけでなく、偉人や街道のまちとしても高安山麓地域をアピール。	
活用アイデア	地域	・里山らしさを売りの一つにして、里山的な植物管理を行う。
	事業者	・寺や寺院跡を多いことを活かして御朱印帳めぐりをする。 ・植木畑の花が咲く時期に巡礼バスツアーを行う。
	行政	・視認性の悪い古墳を見えやすくする。 ・古墳の内部を VR で再現する。 ・モースらが歩いた道ということで、史跡内を巡れる道を整備する。（舗装をしない方が里山らしさを感じられる。） ・航空写真が残っている昭和 30 年頃の姿を植生も含めて再現する。 ・季節毎に見頃の歴史資産を巡るバスを走らせる。（車体デザインは虎バスにし、看板を作る会社と連携して楽しいバスにする。）

関連歴史 資産等	東高野街道、十三峠、玉祖神社、恩智神社、法蔵寺、神光寺、教興寺、大通寺、伴林光平墓、高安能、など

高安千塚古墳群:B班

キャッチ コピー	古墳の森を走る　しぎとらくん（ケーブルカー）	
キーワード	≪有名人≫聖徳太子 ≪山麓の歴史文化≫朝護孫子寺詣で、古墳の森、ケーブルカー ≪寺社≫朝護孫子寺	
スパイス	鉄道（ケーブルカー）	
ストーリー イメージ	巨大古墳が多くつくられた心合寺山古墳の頃から 100 年ほど後、古墳時代後期には西塚古墳を皮切りに小規模な横穴式古墳が高安山の麓の服部川・郡川支郡他に数百つくられ、そこは高安千塚と呼ばれました。東高野街道から少し離れた場所にあることが功を奏したのか、約 1400 の時を経て今も 200 基あまりの古墳の墳丘を見ることができます。 そんな高安山麓には、昭和の初め、信貴山口―高安山を結ぶケーブルカーと、高安山―信貴山門までの山上鉄道が走ります。人々は、この２つを乗り継ぎ約 1400 年前に聖徳太子が物部守屋との戦勝を祈願した寅の朝護孫子寺詣でをしていたそうです。戦後復活することはなかった山上鉄道は世界的に見てもスイス以外ではあまり見られない、とても珍しいものだったようです。今はその役割をバスに託し、かすかにホームの跡が確認できる程度です。 そして今でも信貴山のイメージキャラクター「しぎとらくん」が描かれたケーブルカーが、古墳の森を一直線に走りながら、朝護孫子寺詣で客を運びます。	
活用イメージ	暗闇の中、ライトアップされた古墳の森を走るケーブルカーツアー（夜観光の充実）など群集墳の魅力の創造。山本駅⇒信貴山口も虎ラッピング	
活用アイデア	地域	・土地所有者が活用の意義を理解する。 ・近鉄に虎ラッピングにしてもらうよう要望する。 ・高安まつりとタイアップして、高安千塚古墳周辺をめぐるスタンプラリーなどの商品をつくる。
	事業者	・山本⇒信貴山口間を虎ラッピング電車にする（難しい場合は虎ヘッドマーク：四季毎パターンにしてリピーター） ・イベントとして、ケーブルカーに自転車を乗せ、山上を交通規制してサイクリングができるようにする。 ・生駒山上遊園との山上でのアクセスを確保し、こちらからも生駒山上遊園に行けるようにする。 ・ケーブルカーの中でのガイドを話題になるような面白いものにする。 ・ラッピングカーのスポンサーに八尾市内企業など入ってもらいスポンサーを宣伝する。朝護孫子寺もスポンサーとなる。 ・屋上でビアガーデンを開店。
	教育 関係者	・遠足で学びながら歩く（帰りはケーブルカーで古墳の森を抜ける）
	行政	・求められる支援をできる限りする。
関連歴史資産等	心合山寺古墳、郡川西塚古墳、朝護孫子寺、山上鉄道ホーム跡	

由義寺跡イメージ　　寺内町イメージ　　高安千塚イメージ

市民会議アンケート結果

市民会議の最後に市民委員 12 名の方に歴史ストーリーの有効性などについてアンケートを行いました。歴史ストーリーやそのアイディア出しのためのキーワード集・スパイス集については、市民委員の方全員が有効と捉えていました。その理由として、歴史をあまり知らない人に知ってもらうためのツールとして有効性を感じている意見がみられました。一方で、ストーリーづくりの手法についての課題も示されました。ストーリーを作成したい歴史資産については、由義寺跡や環山楼など多様な意見が集まりました。市民会議に参加した感想としては、次回も参加したいという声や活用への期待の声もあがっています。

歴史ストーリーの有効性

今回取り組んでいただいた「歴史ストーリー」は遺跡や史跡などの文化財の活用や情報発信するうえで有効だと思いますか？その理由は？

有効だと思う　１０票

理由：文化財を知らない人、興味がない人にも知ってもらうキッカケになるため／地域の素材を有効に様々な形で情報発信できると思うから／その歴史資源に対して、いろいろな意味付けがされており、今後活用できると思うため／歴史ストーリーがあった方がインパクトが大きいと思うため／まずは有効性のある案（ストーリー）を実現させる為の動きが必要。その為の前段として有効。／議論した事が実現できたらと思うと楽しい仮定探しになった／議論しなければ分からない

どちらかといえば有効だと思う　２票

理由：多くのアイデアは出るが方向性の定まった議論になりにくい／知らない人に興味をもってもらうとっかかりになる

キーワード集・スパイス集の有効性

キーワード集やスパイス集は、「歴史ストーリー」のアイディア出しに有効でしたか。

有効だと思う　９票

理由：知らなかった事がけっこうあったので有効だった／キーワード集があれば、文化財について素人でもとりくみやすかったため／自分の知識だけでは、キーワ

ードに行きつかないため／キーワード集やスパイス集を見ながら、いろんな議論ができたため／知らない考え方であったし、わかりやすく情報を出しやすい／"words"で捕えて"sentense"にするのが有効ということが分かった／一つのキーワードをつなぎ合わせるやり方がおもしろかった

どちらかといえば有効だと思う　３票

理由：キーワード、スパイスに引っぱられる感じになるかも／アイディアの方向性を狭めてしまう可能性があるように思う／知らない人に興味をもってもらうとっかかりになる

ストーリーを作成したい歴史資産

「歴史ストーリー」を作成してみたい‘やお’の歴史資産（文化財）はなにですか？その理由は？

歴史資産（文化財）	理由
由義寺跡（２票）	未知の部分が多いから／日本でも指折りの史跡になる可能性を秘めている。道鏡と称徳天皇の恋をテーマに善人道鏡を立証していく
環山楼（２票）	今も子ども達が放課後学習に使っていると聞いた。ストーリーが膨らみそう。／環山楼はよく前の道を通りますが、その歴史を知らないので勉強してみたいです。
ふとん太鼓	各地のふとん太鼓の歴史を知ることで、わが町の文化財に責任と誇りを持ってもらえると思う。
久宝寺寺内町	アピールすべき文化財が多くあると感じたため
勝軍寺、教興寺、稲城	聖徳太子の虚実を両方見ることが大切だと思う
旧街道	いくつも街道があり、その歴史をクローズアップさせたいから
その他（高安千塚古墳群、麟角堂、大和川の付替え、八尾での合戦）	

感想

・毎回楽しく過ごさせていただきました。八尾の魅力をあらためて感じました。ありがとうございました。

・６回という短い期間でしたが、知らなかった歴史も知り、今回のようなストーリーにくり上げるという取組みが学べて、又、チームの方と触れ合う事ができ、良い経験となりました。是非今回のストーリーのどれかが実現できます事を願っております。有難うございました。

・初めて参加させて頂きましたが、参加者一人一人の想いがバンバン出て、実に活気的な場でした。次年度以降もできればぜひ参加致したく思います。ありがとうございました。

・『歴史資源→歴史資源の活用→八尾の活性化』という道を考えたが、行政の『B/C=B by C』と予算と時間を勘案すると甚だ難しいということが分かった。機会あれば、また参加したい。

・多くのアイデア・意見がでるので、ターゲットや方向性があいまいになる。隘路になることもあるので、そのあたりを補正する方法も取り入れていく必要があるのではないか。活用の段階のお手伝いができればうれしいと思っています。

・A 班より自分の興味は B 班に近いような感じで、うまくまとめるのに協力できなかったような気がします。

・学ぶことがたくさんあり、とても有意義でした。

・時間についても、平日の業務後約 2 時間程度であり、参加しやすい環境でした。

・参加した市民の方の知識量に驚きました。その中で、文化財に興味のない人にももっと八尾市の観光資源として認識してもらえればと思います。

・他の市民委員さんはとても知識が豊富で、お話を聞いていて大変勉強になりました。八尾の歴史資産に対する熱い思いをもった方がたくさんおられ刺激を受けました。この会議に参加した経験を今後の業務に活かしていきたいです。

・無知識なので役立てるかかなり不安であったが、様々な人達との交流もあり良い経験であった。

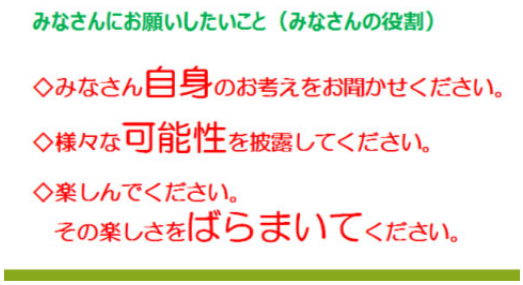
・皆さんいろんな経験を持った方々がおられるのでいろんな話しが聞けた

前年度(平成 29 年度)の推進市民会議報告書抜粋

平成 29 年度に行った推進市民会議では、「由義寺跡」の活用について、事例研究を行い、以下のように取りまとめられました。

＜検討にあたっての条件＞

「久宝寺寺内町」、「心合寺山古墳」、「高安千塚古墳群」、「由義寺跡」のフィールドワークで感じたそれぞれの歴史資産の活用方法や課題などを、ケーススタディとして、「由義寺跡」の活用にどう反映するか、委員12名を３つのグループ（班）に分け、検討を行いました。検討にあたっては、右の考え方で、法的規制や費用などの要因を除外していただきました。



（１）歴史資産の価値の保存と活用の方向性の共有

グループで検討した結果、「由義寺跡をどんな場所にしたいか」については、以下のように取りまとめられました。

班	テーマ	具体的なイメージ
A	ファミリーで楽しめる史跡	・「道鏡の里」（同郷の里）として打ち出す。 ・道鏡さんに親しみをもてるイベント、名産物を展開する。 ・お年寄り、親子など、ファミリーが楽しめる。 ・当時の生活が楽しめる史跡。
B	地域から外から人が集まる場所	・散歩に行きたいと思える場所。 ・都があったということは賑わいのある場所だった。 ・ランニングしている人がふらっと立ち寄れる。 ・大きいので八尾市だけではもったいない。八尾市外の人も由義寺と分かるとよい。 ・近所の人も喜ぶ公園がよい。防災公園を兼ねるとよい。 ・イベント時以外は普通の公園。
C	誰もが参加できる交流ができる場所（八尾を紹介できる拠点）	・人と人があって話をする場、好きな人が継続的に来られる場にしたい。 ・屋根もあって交流できるスペースがある場所。

（２）活用のためのデザイン

由義寺跡の文化財としての価値を紹介し、活用する方法として、以下のようなアイデアが出されました。ただし、実施するにはいずれも、地域住民の理解も考慮（交通量、騒音による影響など）したうえですすめる必要があります。

1）文化財としての価値を紹介するためのデザインの検討

由義寺跡（七重塔）の価値を紹介する手法について以下の意見が出されました。

紹介する価値	アイデア	班	デザインイメージ
塔の規模（高さ）	VR を活用し現地で実感	A	60～70ｍの塔の高さがわかるようにバーチャルで由義寺を再現し写真撮影できるようにする。
	気球を飛ばす	A	当時の塔の高さまで気球をあげて高さを実感し、周囲の風景を見る（ロープ付）。
	八尾空港の活用	A	空から史跡全体を眺め、ヘリコプターで塔の高さを実感させる。
	バルーンをイベント時に膨らませる	B	新店開店のようにバルーンを上げれば、高さを示せる。
	塔再現写真コンテスト	B	小さいサイズの七重塔レプリカを自由に作ってもらい、遠近法で再現してもらう。
	大きな絵	B	飛行機など上から見て分かるようにする。
	プロジェクションマッピング	B	壁にプロジェクションマッピングを映す。
	AR・CG 等活用	C	視覚的に見せる。
	地面に 70ｍの塔の絵を書く	C	平面でその高さを実感させる。夜はライトアップ。セスナで上からも見られるようにする。
塔の位置・規模 （基壇の大きさ）	20m×20m 基壇を示す	A	位置、規模がわかるようにする。
		B	芝生をはるなど基壇跡を目立たせる。
	高い見晴台の設置	A	東西南北を見渡せるようにする。
	Google などデジタルマップ上に塔を表示	B	基壇跡に七重塔の形でマップに落としてもらう。
	基壇を見せる	C	埋め戻してしまうのでなく、一か所くらいはガラスで覆って地下が見えるようにする。
歴史的事実	由義寺・由義宮の解明	A	未調査地（北側）を発掘調査し、由義寺・由義宮として、一体的な資源として活用する。
	解説板の設置	B	道鏡の時代の時はどういう姿だったのかを解説版で説明。
	資料館の設置	A C	資料館を情報発信の拠点として設置(宇佐や下野の写真等もあわせて展示し、ストーリーも解説する)。
	ガイドによる説明	C	ガイドを常駐し、展示室での説明をする。
周辺資源との関係性の紹介	セスナ機による遊覧（八尾空港活用）	C	八尾の古墳群や由義寺跡を遊覧（百舌鳥・古市古墳群も含める)。
その他	存在を気づかせる	A	国道 170 号（外環状線）の沿線区間の特殊緑化：史跡付近の街路樹に特徴（道鏡ゆかりの木）をもたせ目をひく。
			国道 170 号の高架から史跡看板を見せる。
		B	鉄塔を活用（「七重塔復元」と垂れ幕を下げる、ライトアップ)。
	七重塔を模した	B	イベントの時に風船（ビニール）を膨らます。

紹介する価値	アイデア	班	デザインイメージ
	風船		
	カラータイルで表現	B	道鏡と称徳天皇、七重塔などをカラータイルで沿道などに表現する。

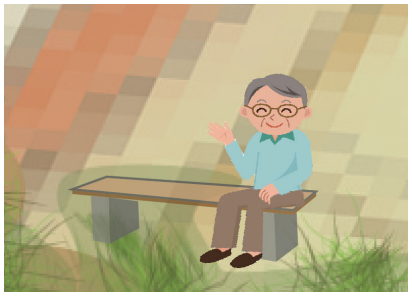
活用イメージの一例（解説板で説明／塔をタイルで表現／セスナで上空から見る）

2）さまざま活用に向けた環境整備

歴史資産を多様な視点から資源ととらえた活用における環境整備として、以下のアイデアが出されました。

環境整備	班	具体的なイメージ
お店、トイレ・休憩所の設置	A	日曜日や夏休み等でのイベントに対応。
飲食・休憩スペース	C	見学する人が弁当を食べられ、休憩もできる。
駐車場の整備	B	近隣の安全対策。
	C	由義寺跡を市内の観光拠点にして、ここからいろいろなコースをまわる。ヘリポートなどでも考えられる。
大規模駐車場の整備	A	イベントなど多人数に対応できるようにする。
アクセス環境整備	A	ルートの説明版の設置。
		道鏡通りの整備（志紀駅から由義寺跡まで道標の設置やレンガ敷、石畳にするなど特別なイメージ）。
		歴史街道としての道路の整備。
		道標の整備。
		志紀駅を快速停車駅にする。
		駅に案内板を設置する。
	B	近鉄山本駅からの道中に由義寺にちなんだ話を紹介（ex. 京田辺）。
		バス停「由義寺跡」をつくる。
憩いの場	B	花や芝生で、地域の人が親しむ憩いの場（中途半端な公園の変な溜まり場になってほしくない）。
	C	桜を植える。春は玉串川からの桜のネットワークで散策等もできる。
道鏡橋の設置	A	地区を分断する国道 170 号に高架橋を架け、垂幕を設置。
道の駅の整備	A	八尾の新鮮農産物や土産品（開発）を販売。

	C	自分たちで土曜日・日曜日だけでも道の駅をやる（近くにスーパーはできる）。
ゆるきゃらの製作	A B	ゆるきゃらを作ってイベントや土産品に活用する。



活用イメージの一例（憩いの場：ベンチ／花壇）

（３）活用方法

活用方法について、その資源を活用する主体（アクター）別の整理（活動資源、教育資源、事業資源）と、他の資源とネットワークによる活用方策について以下のように整理しました。なお、活用資源は、例示であり他の資源として活用することも想定されます。

１）活動資源（地域的団体・組織）としての活用方法

イベント名	班	具体的なイメージ
95 人での共同イベント	A	塔の建設の関わったといわれる人数で主催。
イベント	A	道鏡下駄とばし(距離を競う)。
		下駄をはいてのかけっこ。
		「道鏡人形」を担ぐだんじり。
	B	道鏡称徳パレード。
		古代から現代の音楽祭。
	C	月１回は定期的にイベントを開催する。
		道鏡にちなんだ人でつくる航空写真。
イベント（広さを活用）	B	手作り市。
		脱出ゲーム。
		マラソン大会。
コンテスト	A	「道鏡さ～ん！」コンテスト（遺跡の中で大声で叫ぶ）。
	B	美女・イケメン道鏡コンテスト。
他のイベントとの連携	A	史跡地から志紀自衛隊の花火を見る（自衛隊と連携）。
	B	八尾若ごぼうや河内木綿の販売もするとよい。
	C	久宝寺緑地のイベントなど市内の府施設と結びつける。
河内音頭	C	道鏡と踊ろう！：道鏡や八尾に縁のある人のお面をかぶって盆踊り。
	A	塔跡を囲んでの河内音頭の開催。
		道鏡物語を河内音頭（新制作）にする。
	B	由義寺跡もしくは近くの空き地で河内音頭をする。
		由義寺基壇の入った河内音頭を公共的な場所やラジオ、YouTube で発信する。
古代の宴の再現	A	当時の食べ物、服装を体験。

	B	由義寺では宴をしていたこともあり、その現代版を行う（大人酒盛り：お酒は道鏡にまつわる）。
子ども向け（子どもが来れば親も来る）	B	「道鏡まつり」:称徳天皇と道鏡の着ぐるみや移動動物園で子どもが来る。
		有名なゆるきゃらを呼んで、子ども向けの芝居をする。
	C	道鏡に関連したイベントを開催する（書初め大会：道鏡はしっかりした字を書いたことにまつわる）。

2）教育資源（教育関係者）としての活用方法

イベント名	班	具体的なイメージ
中高生の遠足ルートを教科書とリンクさせる	B	遠足で来てもらうなどで、市外の人にも八尾が歴史ある町だということを知ってもらいたい（八尾の歴史には教科書に出てくる人も登場する）。
花畑・写生大会	C	ひまわり畑、小学生が花風景の写生をしている横に基壇があるイメージ。
社会科見学、遠足	C	市内の小学校が見学して地域の歴史を知る。継続的に行う。

活用イメージの一例（遠足／イベント：道鏡下駄飛ばし大会／河内音頭）

3）事業資源（商工業）としての活用方法

活用方法	班	具体的なイメージ
お土産品（開発）	A	八尾の名産を売る→自然食を売りにする。 ・「道鏡まんじゅう・ういろう」の開発、枝豆ビールとコラボ。 ・「道鏡焼き」おやきを作る→枝豆・若ごぼう入。 ・当時の食べ物の開発、PR（ex.飛鳥の赤米）。
食イベント（道鏡にまつわる）	B	食べ物や全国B級グルメ、お酒（お酒は道鏡にまつわる）。
	C	・イベント時に八尾の名産品を販売する。 ・枝豆の時期には恩智が近いので駐車場で販売（堀り取り体験＋ビールの場所にする）。 ・紅蓼のせんべいも販売。 ・市内の店が出店。 ・夏ならビアガーデン、冬ならキャンドルナイト等を行う。 ・道鏡をきっかけにした新商品のモンドセレクションや物産展の開催。
ゲーム	B	ポケモンGoでポケモンが出てくるポケストップにする。
		ゲームアプリに道鏡を入れてもらう。
	C	道鏡を探せ（AR使用）：ポケモンGoと同様の方法で道鏡さがし（50種類くらいの道鏡／聖徳太子関連史跡では聖徳太子Go）。
イベントとの連携	B	スタンプラリーやハイキング時にクーポンを発行し人の流れをつくる。
展示室で市内産	C	（関連商品の開発：商工会議所の協力）

業工業製品等(由義寺・道鏡関連商品)も展示・販売		・道鏡歯ブラシ（来た人の御土産になる）。 ・道鏡饅頭、道鏡焼酎、道鏡ソフトクリーム。

活用イメージの一例（商品開発）

4）他の資源とのネットワークによる活用方策

ネットワーク法	班	具体的なイメージ
史跡ネットワークの形成	C	コース設定：道鏡ゆかりの地を巡る（半日コース・山側コース）。近隣地域とのネットワーク。
史跡ネットワークの形成（市内）	A	山麓、中腹コースの整備：信貴山口～志紀駅（市民の森、恩智神社経由）、近鉄八尾駅～恩智駅、河内国分駅～志紀駅、山本（バス）～心合寺山古墳、歴史民俗資料館（レンタサイクル）～志紀駅を巡るコースの設定。
		史跡連絡バス：心合寺山周辺⇔由義寺跡（日曜だけでも運行）
		ヘリコプターで八尾空港から市域一円を回る（道鏡、称徳天皇の恰好で乗る、カップルには記念日運行のサービス）。
		1日ハイキングコース設定（全ての道は由義寺へつながる）。
		野鳥観察しながらの史跡めぐり：森林育成、広葉樹保全の視点、荒廃している緑（ナラ枯等）実感。
	B	スタンプラリー：独自マップを作成して、道鏡に道案内をしてもらう。最後に景品がもらえる（スタンプラリーはスマホでもできる。各自で押してもらう紙形式でもよい。アナログ、QRコード、写真→巡った数に応じて景品と交換。）。
		歴史物語で繋げる（八尾の歴史のストーリー性や歴史ロマンで繋げる）。
		心合寺山古墳でお弁当が食べられる。
	C	道鏡にスポットをあてゆかりの地を巡る。 （半日コース：由義寺跡～JR 八尾～龍華寺跡～物部守屋～天童よしみ） （1日コース：山麓方面を設定）
史跡ネットワークの形成（近隣）	A	南河内世界遺産（予定）との連携（車利用）。
		羽曳野市の史跡との連携。
		国道で仁徳天皇陵とつながる。
ハイキングと一体化	A	四季の花を活かしたハイキングコース
	B	高安千塚～ハイキング（自然・花の観賞）。
水路・水で巡る八尾	B	玉串川で繋ぐと、自転車も走りやすい。（平地には水路、山地にはため池がある。）。

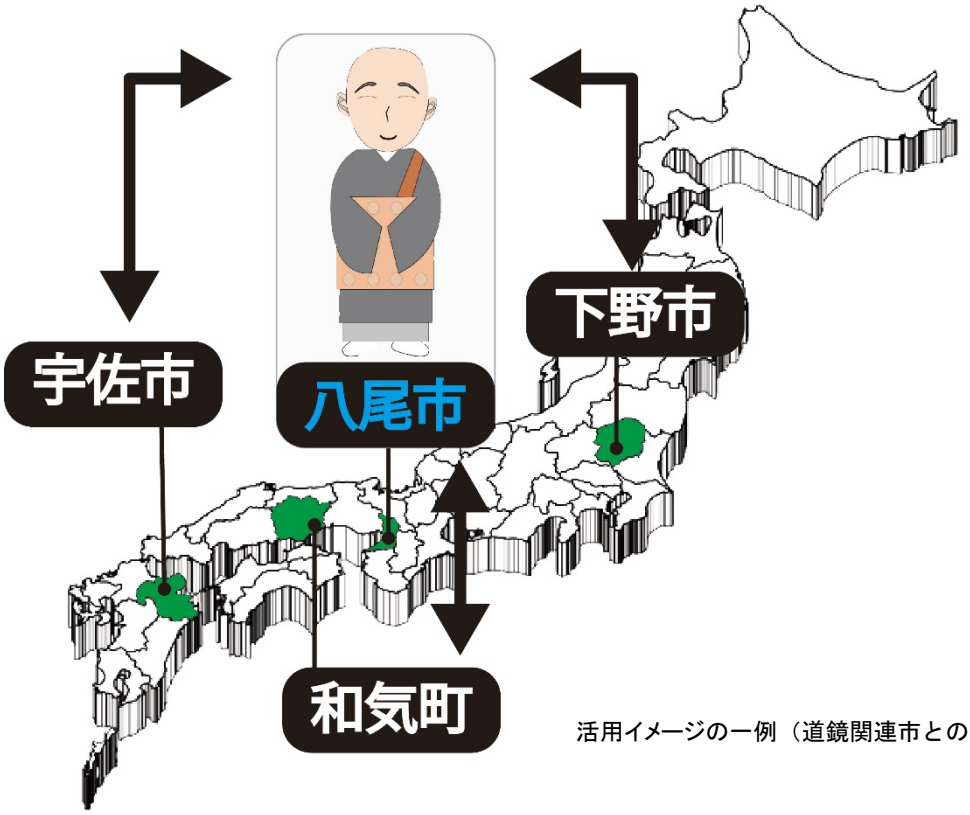
ネットワーク法	班	具体的なイメージ
昔話を聞きながら歩く	A	八尾が舞台の民話、悲話など（本を説明しつつ巡り歩く）。
大和川の付け替えも紹介	C	昔の大和川の跡である段差を楽しむ散策（ブラタモリ）。
ルートマップ	B	サイクリングルートマップの作成。
		モデルコース：分かりやすい地図（高安千塚のコースも設定する）。
乗り捨て可のレンタサイクル	A	レンタサイクルの活用。
		パーク＆ライド方式の検討。
		健康サイクル PR。
	B	レンタサイクルの活用。 ※但し、歴史資産を巡るにも移動手段が課題。寺内町と心合寺山古墳で 2 時間ほどかかる。高安千塚古墳群は自転車では厳しい。
バスツアーガイド付き	C	由義寺跡を起点にした心合寺山古墳＋道鏡のバスツアー（あまり知らない人向け：食べ物とセットでひきつける）。 聖徳太子から入るツアー（教科書に出てくる人物の方が興味もつ）。
八尾の歴史ミステリーベスト 10	B	キャッチーなタイトルにすることで、興味を持ってもらえる（大和川付け替え、古墳何百個）。

活用イメージの一例（水路で巡る八尾／サイクリングルートマップ）

５）その他の活用方策

活用方策	班	具体的なイメージ
関連市との連携	A	下野市と国史跡での連携（イベント交流、訪ね合う交流）。
	C	宇佐市・和気町等道鏡ゆかりの地との協力。
商業施設との連携	A	計画中の温泉施設の利用者と史跡見学者が相互に寄るしくみをつくる。
道鏡さんのイメージアップ	A	下野市では道鏡の良いイメージが浸透し、まちづくりに活用している。
	B	キャラクター化する（美男美女化するのもよい）。
		道鏡をかわいらしいイラストにし町中に貼っていく（配布でもよい）。

		歴史を曲げない範囲で道鏡にまつわる良い話（地域創生や公共事業をすすめたこと）を広める。
情報発信	A	今できるイベントを市民に知らせる。
	B	由義寺を知ってもらうために、公共電波や YouTube で発信する。
		町会で話題になっており、多くの人が活用に期待している。
		歴史物語のチラシを作って発信する。
		駅など人の集まる場所にリーフレットやポスター、マップなどを置く（駅にあるとふらっと取れる）。
		駅にまち歩きコーナーを設置する。
	C	検索ワードやクイズを掲載するなどホームページを閲覧させる工夫をする。
		動画を作成する。
		図書館に道鏡コーナーをつくる。
		駅に PR コーナーをつくる。
全てのルーツは八尾にある！ で PR	B	八尾に縁のある歴史的有名人を前面にだす。
	C	・西京で売り出したい！（平城京と対等なという書き方） ・キャッチコピーをつくる。道鏡：「日本を動かした、八尾で唯一の人物」、西京：「日本のバチカン」。
公共交通機関との連携	A	・電車やバスにラッピィング。 ・電車のヘッドマークに道鏡さんを採用。 ・イベント時には急行電車も停車。
	B	駅に由義寺や道鏡に関するデザインをする。



活用イメージの一例（道鏡関連市との連携）

3 シンポジウム概要、アンケート結果

平成 30 年 10 月 28 日（日）プリズムホール小ホールにて「由義寺跡国史跡指定シンポジウム『幻の由義寺発見―称徳天皇と道鏡が夢見た風景―』（八尾市制施行 70 周年記念事業)」を開催しました。一般申込定員 270 名のところ 362 名の申し込み（事前申込制）がありました。

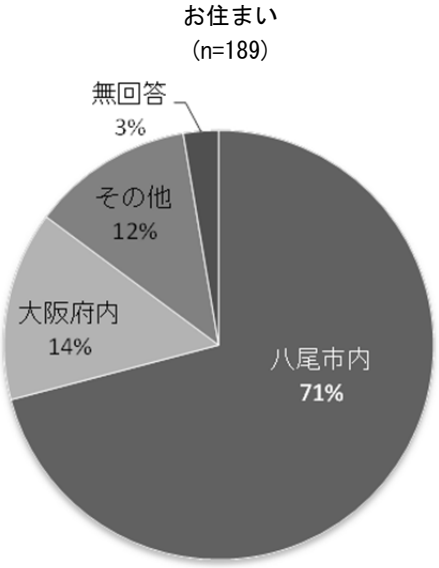
シンポジウムは、まず、文化財課の職員と発掘調査体験をした八尾翠翔高校の生徒による由義寺跡の発掘調査報告が行われ、吉川真司京都大学大学院教授より「由義寺と由義宮―仏都としての西京―」をテーマにしたご講演をいただき、昼休憩をはさんで、マンガ家里中満智子先生による記念講演「称徳天皇と道鏡のきずなの真相」、最後に「由義寺と道鏡の歴史的評価をめぐって」をテーマに近江俊秀文化庁文化財調査官、和泉大樹阪南大学准教授、田中誠太市長をパネラーに加え、森屋直樹大阪府教育庁文化財保護課長をコーディネーターとしてパネルディスカッションを行いました。あわせて、小ホールロビーにおいて出土遺物やパネルの展示を実施しました。

シンポジウムの際に行ったアンケート（出口回収）では、189 件のアンケートを回収し、その結果（抜粋）は以下のとおりです。

問　どちらからお越しになられましたか。

八尾市内が 71%を占めています。

一方で、市外からは、府内が 14%、その他が 12%となっており、市外の方も 26%が参加されています。

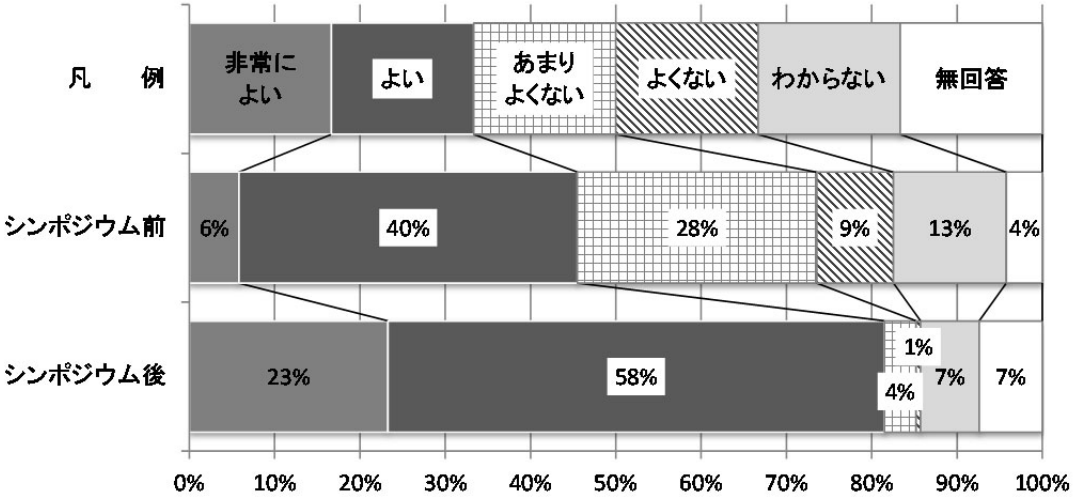


問　本日のシンポジウムに参加されて、「道鏡」に対するイメージどうなりましたか。

シンポジウム前は「よい」が 40%で最も多く、「あまりよくない」が 28%となっていましたが、シンポジウム後は、「よい」が 58%と 18 ポイント増加し、「非常に良い」も 23%

と 17 ポイント多くなりました。

シンポジウム参加前と後の「道鏡」イメージ（n=189）



変化の詳細をみると、シンポジウム後によいイメージ※1を持った方のうち、シンポジウム前によくないイメージ※2だった方は 56 名（全体の 30%）を占めています。またシンポジウム前には「わからない」がよいイメージになった方が 15 名（全体の８%）おられ、「わからない」方がシンポジウム後によくないイメージを持たれた方はいませんでした。

なお、道鏡のイメージがよいイメージからシンポジウム後によくないイメージになった方はみられませんでした。

※１：よいイメージ：「よい」と「非常によい」の合計
※２：よくないイメージ：「よくない」「あまりよくない」の合計

シンポジウム参加後の「道鏡」イメージ別、シンポジウム前のイメージ

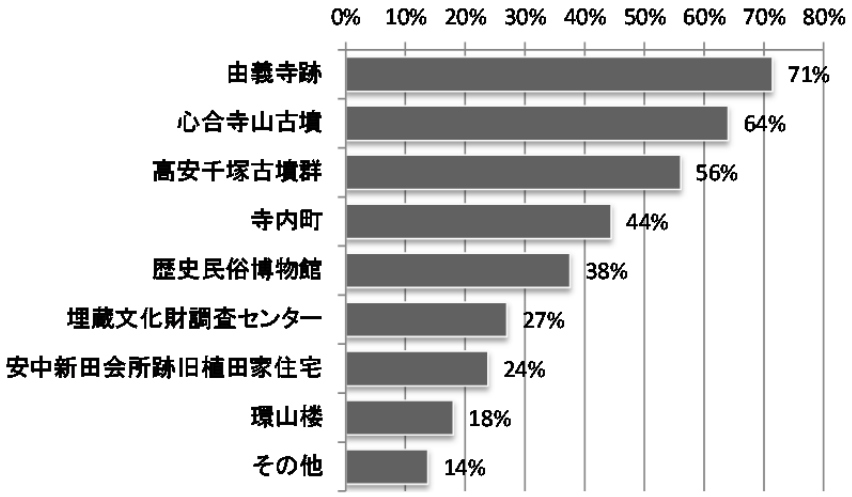
（件）

後＼前		シンポジウム前				合計
		よいイメージ	よくないイメージ	わからない	無回答	
シンポジウム後	よいイメージ	83(44%)	56(30%)	15(8%)	0	154(81%)
	よくないイメージ	0	8(4%)	0	0	8(4%)
	わからない	0	5(3%)	8(4%)	0	13(7%)
	無回答	3(2%)	1(1%)	2(1%)	8(4%)	14(7%)
	合　計	86(46%)	70(37%)	25(13%)	8(4%)	189(100%)

問　歴史に興味がない人でも八尾を楽しんでもらえる、あなたがお薦めする「八尾の歴史資産」は何ですか。

由義寺跡が最も多く 71%がお薦めしており、次いで、心合寺山古墳が 64%、高安千塚古墳群が 56%となっています。

歴史に興味がない人でも八尾を楽しんでもらえる
お薦めの「八尾の歴史資産」は何か（複数回答）(n=189)



その他では、以下の資源があげられています。

（ ）は意見数

【歴史資源】

・勝軍寺（周辺）(4)　・常光寺 (2)　・社寺（市内にある神社仏閣すべて）(2)
・河内木綿(2)　・聖徳太子古戦場　・聖徳太子に関する所、物　・俊徳丸
・顕証寺　・信貴道、水呑さん　・高安城跡、物部氏
・八尾南遺跡、楠本神社（三座）　・渋川廃寺　・戦国大名（美青年）
・戦国時代の武将が若い人に注目されているので、常光寺や武将のお墓、戦跡など（全部ですが、特に興味がない人にということで。）
・伴林光平碑（伴林をもっと取り上げてほしい）
・古代から現代までの八尾市の地理、歴史を大々的に PR する
・河内街道　・太子堂ほか、物部関係　・ドルメン、道標　・私塾跡など

【近代～現代資源】

・せっかく八尾空港があるので飛行機を使う歴史、地形発見　・八尾飛行場
・平成 30 年 10 月の市民ロビーで展示（八尾の建築案内写真展）の建物群
・八尾温泉　・今東光資料館

【その他】

・スカイライン　・大阪関連の講演

4 用語の定義

本書で用いる「歴史資産」や「文化財」などの用語は、下記のように定義します。

アイデンティティ…主体性。自己同一性。自分が何者か認識すること。
文化財…文化財保護法をはじめとする法令・例規等に定義される文化財と同義。
地域…校区まちづくり協議会、地区福祉委員会、地区自治振興委員会などの地域活動団体や、財産区、市民活動団体などをいう。または、これら団体等の活動範囲をいう。
歴史遺産…文化財を先人の遺産としてなんらかの形で保存していく必要のあるもの。
歴史資産…歴史遺産がもたらす有形無形の利益を表現したもの。
歴史文化…文化財と自然環境や景観、文化財を支える人々の活動、文化財を維持・継承するための技術、歴史資料や伝承等とが一体となったもの。
保存…現状をかえることなく維持すること。
活用…文化財の価値やその魅力を多くの人に伝え、広く社会に理解してもらうこと。使い続けることで文化財の価値の継承につなげる。

5 参考事例＜庁内横断的な連携による歴史まちづくり事例＞

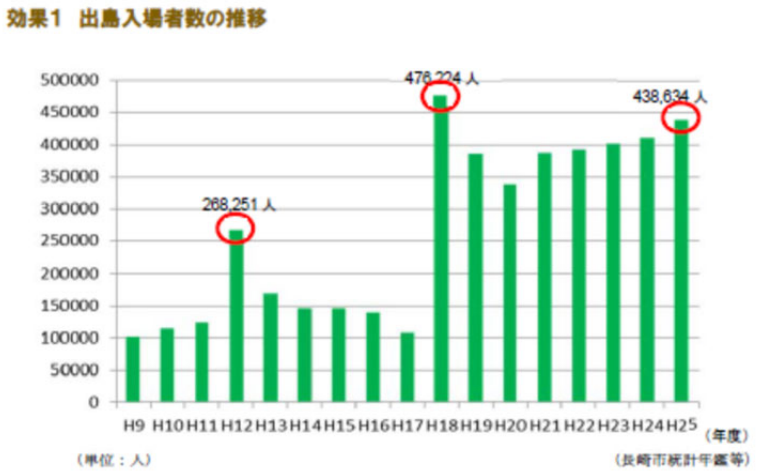
<table>
<tr><th colspan="2">事例１</th><th>「御食国（みつけくに）」の食文化を軸としたまちづくり</th></tr>
<tr><td colspan="2">キーワード</td><td>食文化の活用、地域ブランド化、地産地消</td></tr>
<tr><td rowspan="4">概要</td><td>対象地域</td><td>福井県小浜市</td></tr>
<tr><td>対象歴史資産</td><td>食文化</td></tr>
<tr><td>概要</td><td>小浜市では、奈良･平安時代から「御食国」として栄えた歴史･文化に着目して、食文化を軸とした食のまちづくりを推進。その中で、地域文化を食を中心として紹介する取組を実施。</td></tr>
<tr><td>取組</td><td>・御食国若狭おばま食文化館の整備：食の歴史や伝承料理などの展示。若狭の食材を使った調理･加工体験など市民の生涯食育の拠点、市民と観光客の食を通した交流拠点として活用。
・商家建築を町並みと食の館として再生：明治初期に建てられた元料亭を公開施設として修復。町並みを紹介するとともに、「癒しの食事」を提供。
・食をテーマとする地方博「若狭路博」の開催：平成 15 年秋に、「食」、「祭」、「海」、「文化」をテーマに、御食国としての歴史や食文化、豊かな食などの地域資源を活用。30 日間の期間中に 43 万人が来場。
・地産地消の推進と生涯食育への取組：農産物、海産物の直売や地場産学校給食に取り組む生産者を組織化。「生涯食育」をコンセプトに、5 歳児から学生、成人男性など各世代向けの料理教室や高齢者を対象とした食生活改善指導、スローフードフェアなどを実施。

図：食育の様子</td></tr>
<tr><td colspan="2">効果</td><td>①食をテーマとした地域のブランド化
②食文化の次世代への継承</td></tr>
<tr><td colspan="2">出典</td><td>文化財の効果的な発信･活用ガイドブック(平成 26 年度,ランドブレイン㈱)
http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/bunkazai_hasshin_katsuyo.html</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">事例２</th><th>城下町に点在する文化財を活用したまちづくり</th></tr>
<tr><td colspan="2">キーワード</td><td>ウォーキングトレイル、町歩き、学習スタンプラリー、観光モデル</td></tr>
<tr><td rowspan="4">概要</td><td>対象地域</td><td>三重県伊賀市</td></tr>
<tr><td>対象歴史資産</td><td>城下町（市域）</td></tr>
<tr><td>概要</td><td>市内各地に点在している文化財を保存しながら、観光施設なども含めて互いに連携させて、観光資源や市民への生きた教材として様々な方法で活用。</td></tr>
<tr><td>取組</td><td>・ウォーキングトレイル事業：行政と市民との WS を行い、総延長 3.43km のウォーキングトレイル事業として遊歩道整備を推進。景観に配慮した地道風アスファルトや側溝改良、和風街路灯や防護柵の整備、石材ベンチの設置などを実施。回遊性を向上し、楽しく歩ける街並みづくりを他の事業とも連携しながら展開。
・ふるさと学習スタンプラリーの開催：地域の文化財を子ども達に知ってもらうために、市内の約 20 か所の文化財をパッケージ化して、市内の子ども達を対象にふるさと学習スタンプラリーを開催。スタンプラリー用紙で無料入館可。平成 26 年は 2,148 人が参加。
・伊賀の文化の体験･発信地区：百年の町家を改修した複合施設「まちやガーデン伊賀」や登録有形文化財を第三セクターが仲介で改修したカフェ「café wakaya」、登録有形文化財を市が伊賀の文化を体験･発信していく拠点施設「赤井家住宅」など文化財を積極的に整備･活用。「赤井家住宅」では、市民や来訪者が交流し、様々な企画･体験ができるレンタルスペースあり。
・観光モデルの構築：市全域を対象に、下表の 6 つのテーマによる体験メニューと 9 つのモデルコースを設定。
<table>
<tr><td>体験メニュー</td><td>「いがぶらり～街歩き・自然を満喫～」、「歴史と文化・伝統工芸をたずねる」、「伊賀びとの技」、「伊賀の食と出会う」、「美容と健康を伊賀で体験」、「伊賀といえば忍者と芭蕉さん」</td></tr>
<tr><td>モデルコース</td><td>「芭蕉のふるさとを訪ねて」、「夏の楽しみレトロ編」、「忍者なりきりデート編」、「城下町を着物で歩こう」、「夫婦でぶらり伊賀焼めぐり」、「柘植～阿山の里をめぐる」、「島ヶ原の里をめぐる」、「大山田の里をめぐる」</td></tr>
</table>

図：ふるさと学習スタンプラリー

図：赤井家住宅</td></tr>
<tr><td>効果</td><td>①回遊性と景観の向上
②子ども達への普及啓発</td></tr>
<tr><td>出典</td><td>文化財の効果的な発信･活用ガイドブック(平成 26 年度,ランドブレイン㈱)
http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/bunkazai_hasshin_katsuyo.html
伊賀上野観光協会 HP：http://www.igaueno.net/
伊賀ぶらり HP：http://igabura.com/</td></tr>
</table>

事例３		交流拠点の復元と市民主体のまち歩きプログラム
キーワード		交流拠点、歴史的拠点の復元、町歩き
概要	対象地域	出島（長崎市）
	対象歴史資産	出島
	概要	出島と関連文化財を復元整備するとともに、市民によるまち歩きプログラム「長崎さるく」により、観光資源･教育資源として活用。
	取組	・交易拠点「出島」の復元： 昭和 26 年から整備計画に着手し、平成 13 年に完全公有化。平成 8 年度より復元事業を開始。ガンダンス的要素を盛り込みながら、当時の建物や生活様式を再現。文化･体験メニューの充実や出島のミニチュアであるミニ出島を県立高校のカリキュラムに取り入れ、生徒による復元･補修作業や、出島の復元支援を目的とした年間フリーパス「出島商館員」の発行等を実施。 ・市民が主役の観光まちづくり「長崎さるく」：名所や旧跡だけでなく、坂道や路地なども含めたまちの魅力について、新たな「まち歩き観光コース」をゾーン毎に設定。多くの市民が語り部として、街中や出島内のガイドを担い、来訪者に様々な歴史･文化のストーリーや魅力を伝えている。  図：出島入場者数の推移（H12：第 1 期整備完了、H18：第 2 期整備完了）
	効果	①観光客の増加 ②地域内外からの来訪者の理解促進
	出典	文化財の効果的な発信･活用ガイドブック(平成 26 年度,ランドブレイン㈱) http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/bunkazai_hasshin_katsuyo.html

<table>
<tr><th colspan="2">事例４</th><th>歴史的資源を生かした観光拠点整備及び創業支援</th></tr>
<tr><td colspan="2">キーワード</td><td>創業支援、観光拠点整備、修景整備</td></tr>
<tr><td rowspan="5">概要</td><td>対象地域</td><td>法隆寺周辺（奈良県斑鳩町）</td></tr>
<tr><td>対象歴史資産</td><td>法隆寺周辺</td></tr>
<tr><td>概要</td><td>少子化による修学旅行客の減少や高齢化、若者の流出などの社会的課題に対して、歴史的資源を活かしながら、重点的施策によって地域を活性化。</td></tr>
<tr><td>取組</td><td>・世界遺産「法隆寺」のある斑鳩の歴史的資源を生かした創業促進事業：古民家等の歴史的資源を活用した創業（店舗立地等）を促進するため、古民家等の活用を支援する創業支援補助制度を創設。創業支援員の設置、起業家の発掘、町内での就業支援、創業支援の拠点整備、まちあるき拠点（宿泊施設、店舗等）などを行う。斑鳩町全域が対象だが、法隆寺周辺ではホテルや美術工芸品の販売など観光に資するものに限り、補助額上限を他地域の 2 倍（最大 100 万円）に設定。地方創生推進交付金を活用。
・世界文化遺産「法隆寺」周辺まちあるき観光拠点によるハード・ソフト整備事業：日本版 DMO として認定を受けた地元の不動産会社である「斑鳩産業株式会社」が、斑鳩町の交付金と南都銀行の融資を受けて、滞在型観光となる古民家をカフェとして活用した観光拠点整備や空き家･空き地を活用した商店街活性化事業、情報発信事業等を実施。また、商工会との連携により、婚活イベントや竜田川が発祥とされる竜田揚げの PR 等を実施。飲食店やチャレンジショップでは観光客へのおもてなしを行い、地域経済の循環と雇用を創出。地域経済循環創造事業交付金（ローカル 10,000 プロジェクト）を活用。
※ローカル 10,000 プロジェクト：産学金官の連携により、地域の資源と資金を活用して、雇用吸収力の大きい地域密着型企業の立ち上げを支援。
・斑鳩町まちなか観光景観形成事業：歴史的な町並みを維持しながら観光まちづくりを推進するため、それらを目的とする建築物等については、外装だけでなく内装･設備も含み修景整備に対して補助。補助対象は、歴史的風致維持向上計画における重点区域内。外観については国土交通省所管「街なみ環境整備事業」、内装については総務省所管「地域経済循環創造事業交付金」を活用。

図：和 CAFE 布穀菌
（斑鳩産業㈱が築 120 年の建築物をカフェとして改装し、2014 年にオープン。一連の取り組みが SB・CB のモデルケースとなるように運営。）</td></tr>
<tr><td></td><td>効果</td><td>①重点的施策による観光地としての地域活性化
②雇用創出</td></tr>
<tr><td></td><td>出典</td><td>斑鳩町の歴史まちづくりについて（近畿歴史まちづくりサミット in 奈良斑鳩での発表資料）：
https://www.kkr.mlit.go.jp/kensei/town/rekimachi/ol9a8v0000003mpc-att/sum</td></tr>
</table>

		mit2_ikaruga.pdf 世界遺産「法隆寺」のある斑鳩の歴史的資源を生かした創業促進計画： http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/tiikisaisei/dai42nintei/plan/x24.pdf 斑鳩町創業促進事業補助金：http://www.town.ikaruga.nara.jp/0000000720.html 地域再生計画： http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/tiikisaisei/dai40-2nintei/plan/a294.pdf 歴史的資源を活用した観光まちづくりに対する支援メニュー集（内閣官房　歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進室）： http://kominkasupport.jp/file/support_menu.pdf 日本版ＤＭＯ形成･確立計画（斑鳩産業株式会社）： http://www.mlit.go.jp/common/001158705.pdf 斑鳩産業株式会社まちづくり事業部：http://ikaruga-m.com/

６ 歴史資産のまち‘やお’推進のための基本的な4つの考え方の展開事例（案）

歴史資産のまち‘やお’推進のための基本的な４つの考え方を反映した具体的な事例イメージは、下記のとおりです。これらの事例イメージを参考にしながら、庁内各所管において歴史資産を活かした事業展開を進めていきます。

（１）考え方1.『歴史資産に携わる人づくりを協力しながらすすめます。』の事例イメージ

項目	内容
①地域の伝統文化等の継承支援【補助】	地域分権を推進する組織である「校区まちづくり協議会」が、地域課題として地域に残る伝統文化や文化財を次世代に継承していくための保全・修繕・記録・人材育成などを行う場合に、「校区まちづくり交付金」を活用できる仕組みを検討します。 （例） 顕彰碑・道標などの保全や地蔵盆、夏まつりなどの活性化事業（地蔵の保全や太鼓台の修繕等） ※宗教行事と地域行事の伝統行事との切り分けや財産区財産や地縁団体の財産への交付金の使用の可否などの整理が必要。
②地域の歴史を学ぶための講師派遣	各地域の団体等が地域の伝統文化や歴史を学ぶ場を設け、また、まちづくりへの活用方法の検討を行う際に、その講師となる学識等を派遣する体制を構築します。 （例） ・文化財課職員の派遣や文化財施設の学芸員、学識経験者等の紹介。 ・やお地域まちづくりアドバイザーの歴史分野の選任など
③歴史資産の地域価値の付加	文化財を地域資源との連携など歴史的価値とは違う視点での価値を地域の中で見出し、地域における位置（価値）づけを行うことで、‘わがまちの文化財’の意識を醸成し、地域内の人材の育成につなげていく仕組みづくりを検討していきます。 （例） 地域による「（仮）わがまち歴史マップ」の作成

（２）考え方2.『歴史資産の保存を協力しながらすすめます。』の事例イメージ

項目	内容
①歴史資産保全活動のアドプト活動化	ＹＡＯアドプト環境美化活動のひとつとして史跡をはじめとする歴史資産の保全活動（日常清掃や異常時の連絡など）を位置づけ、活動を行う市民団体等の支援を行えるよう検討します。また、アドプト活動と史跡の保全等を行う八尾市史跡保存活用ボランティアとの連携や協働、または重層的な保全活動についても検討していきます
②指定文化財の保存	各地域に「私たちの文化財」として、一つ以上の文化財を指定化していけるよう計画的にすすめます。また、市民が文化財に親しむ機会を充実させることができるよう指定文化財の所有者による文化財の公開ができる仕組みを構築します。そうすることで指定文化財の存在が地域の誇りとなり、地域内全体の歴史資産の次世代への継承意識の向上につながることが期待できます。 また、国史跡高安千塚古墳群については、そのほとんどが私有地のため、所有者の意向を確認するとともに、保存活用のために策定した「公有化計画」に基づき公有化をすすめる必要があります。あわせて、未指定の高安千塚古墳群の古墳や郡川西塚古墳などの密接に関連する古墳の国史跡指定（追加指定）をすすめます。

③地域歴史遺産認定制度の創設	地域による歴史遺産の保存・保全や、歴史資産としての活用をすすめるため‘地域自ら’が地域内にある「歴史遺産」の価値づけを行い、認定する「地域歴史遺産認定制度」を検討します。あわせて、「地域歴史遺産」の保存・保全のため「まちづくり交付金」を活用できる仕組みを検討します。
④八尾市史跡保存活用ボランティア	史跡の保存活用事業の活動、運営を補助するボランティアの育成をすすめます。

（3）考え方3.『歴史資産の多様な活用をすすめます。』の事例イメージ

項目	内容
①史跡ネットワークの形成	重層的に関連文化財群を構成している歴史資産を核に、関連文化財群間についてもネットワーク化を検討します。また、他市との共催イベントの実施などを通じ、市外にある史跡とのネットワーク化もすすめます。これにより他市からの交流人口の増加が期待できます
②史跡案内ガイドの育成、八尾市観光協会の「やお探」との連携	歴史資産の魅力発信の担い手として観光ボランティアガイドの育成を支援します。また、八尾市観光協会がすすめる観光プログラム「やお探」と連携することで魅力を発信します。
③案内・説明板等の充実と平易な表現や多言語化	現在、史跡等に設置している説明板は、石版タイプのものと、ステンレスタイプのものがあります。いずれも時代（年代）や歴史的な価値を記載しているため、専門的な表現が多く、平易な表現への変換や多言語化は困難でした。現在、学校の郊外学習や歴史ブームで訪れる人たちが増えるなかで、わかり易い表現が求められています。しかし、設置スペースは限られており、全て改修するには時間と費用がかかるため、誰もが簡単に情報を取得するよう、ＨＰや文化財情報システムの内容を平易な表現に努めます。 また、文化財施設のキャプションなども平易な表現や多言語化などの対応をすすめます。
④IT を活用した歴史資産の紹介、情報発信ツールの積極的な活用	誰もがどこからでも情報取得が可能になるよう、文化財情報システムのアップグレードや、またＱＲコード等、総合的な文化財情報システムを構築します。 さらに、新たな‘やお’の魅力として観光客の集客や学習資材としての利用促進に向け、国史跡を中心にＡＲやＶＲ等による整備をすすめます。
⑤交通アクセスの充実と周辺駐車場の整備	公共交通機関を活用したアクセスの充実を図るとともに、民間事業者との連携協定を含めた、周辺の駐車場や駐輪場の整備をすすめます。
⑥キャラクターの活用	歴史資産のまち‘やお’の推進をはかるため、キャラクターを作成し、ＴＰＯにあわせた使用を促進します。また、キャラクターの利用に際して市内事業者に対する利用許諾の簡素（フリー）化をする等、事業者による歴史資産の活用をすすめる方法について検討します。 （例） ・散策モデルコースやサイクリングコースの道路のカラー舗装化とモデルコースの道路に愛称を設定。 ・散策マップ等の充実（ＨＰの活用など市民が入手し易い仕組みの検討） ・歴史ストーリー構成するエリアでのマンホールや消火栓のデザイン化 ・企業が提供しているインターネットにあるマップへの史跡等名称の登録促進及びマイマップ機能を使った歴史資産マップの作成。 ・案内標識のデザインの統一と計画的な設置
⑦歴史資産を巡る仕掛けづくり	関連文化財群であることがわかりやすいよう、歴史ストーリーに沿って周辺の他の資源とともに活用できるような整備を検討します。 また、史跡散策のための地図や複数の種類がある史跡等への案内標識については、利用者にわかりやすい規格（デザイン）の統一化を検討していきます。

⑧情報発信ツールの積極的な活用	文化財施設が実施する展示やイベント情報については、現在、指定管理者が行うもののほか、「市政だより」への掲載、チラシやイベントカレンダーの配架による情報発信にとどまっています。より充実した歴史資産などの紹介を行うために、市のＨＰ等の活用を検討します。また、観光面からの情報発信に向け、八尾市観光協会と情報を共有する仕組みの構築を検討します。 一方、市民等による情報発信（口コミ）も重要なツールとなります。そのためにも、展示の観覧やイベントに参加した市民等がＳＮＳ等で発信できる、したくなる仕組みを検討します。
⑨学校教育での活用のためのしかけづくり	児童・生徒が‘わがまちの文化財’を知る機会の充実につながるよう、歴史資産のパッケージ化やモデルコースの設定などをし、学校教育における歴史資産の活用をすすめます。

（４）考え方４.『文化財施設の充実をはかります。』の事例イメージ

項目	内容
①歴史民俗資料館の充実	‘やお’の特徴である「山ろくの豊かな文化財」と「市域の６割超を占める埋蔵文化財包蔵地」を中心に文化財や歴史資料を有機的に活用していくため、現在、「博物館相当施設」である歴史民俗資料館を「登録博物館」とし、やおの歴史文化の総合的な拠点施設と位置付けて、文化財等の収集・保存及び公開を一層推進する体制の構築をめざします。また、歴史を柱とする地域のまちづくりや行政施策による活用、施設連携の中心となる役割を担ううえで、市民協働や継続的な管理運営が求められることから、指定管理制度から市直営での管理運営への移行の検討を行います。 一方、その他の文化財施設が所管する資料等については、その施設特性に応じた公開等を独自または歴史民俗資料館と協力して行います。また、近年、観覧者によるＳＮＳなどを使った‘口コミ’による宣伝効果が期待できることから展示品等の写真撮影を認めている施設が増えていることを受けて、本市でも撮影可能とする方向で検討します。
②国史跡へのガイダンス施設の設置 ③埋蔵文化財保管庫の確保（センターのあり方）	‘やお’の歴史資産の核となる指定史跡の価値を啓発するために各指定史跡に附属するガイダンス施設の設置を検討します。その際には、市民や地域、利用者が交流できる場などの付加機能もあわせて検討します。 ①高安千塚古墳群は７万㎡もの面積を有し、今後その整備を含めた管理を行っていかなければならなりません。そのため展示に特化するのではなく、調査・研究の機能を有する必要があります。そこで公共施設マネジメントの観点からも埋蔵文化財調査センターとの役割の整理を行います。 ②由義寺跡のガイダンス施設は、交通の利便性の良さから観光施策の南の拠点としても位置づけることができます。そのためには、周辺情報の発信も充実が重要です。併せてガイダンス施設の管理運営については、ボランティアの活用やセルフガイダンスを取り入れ、管理費用の抑制に努めることが求められます。 発掘調査に伴う出土遺物は日々増大しています。そのため、保管場所の確保や、増加する文化財や歴史資料等の収蔵庫の確保も必要となり、これらも場所含めた総合的な施設の確保についても検討していかなければなりません。
④市史編纂事業収集資料の活用方法	平成 21 年度から始まった市史編纂事業で収集した資史料をデジタル化のうえ、クラウドを活用した保存・公開や資史料の展示などの検討をします。

八尾市歴史資産のまち‘やお’推進のための基本的な考え方

平成 31 年（2019 年）3 月発行

発行者　八尾市教育委員会　教育総務部　文化財課
〒581-0003　大阪府八尾市本町一丁目 1 番 1 号
TEL：(072) 991-3881（代表）

刊行物番号　H30－239

古墳の森を走る

1km 四方に
刻まれたヒストリー

千塚へ Go ランド！